

にぼり未来ビジョン

地域を存続させるためには、地域を持続させるための地域経済力が求められます。仁堀地区を中心とした北あかいわエリア経済圏を活性化させる唯一の方法として考えられるのが農業であり、さらに他地域との差別化を図っていくことを考えた場合、有機農産物の増産が最も可能性がある地域活性化策になるのではないかと考えています。

有機農産物のポテンシャル

以下の表を見てみましょう。上表は木の花ガルテン集客数の推移で、下表は岡山県の観光客数です。有機農産物の直売所やレストランの集客数が蒜山高原の観光客数に匹敵する規模を誇ります。

有機農産物にはこれだけの人を引き付けるだけのポテンシャルがあり、地域にはそのポテンシャルを引き出す行動が求められます。



木の花ガルテン全景
*規模は西の屋程度

木の花ガルテン集客数推移

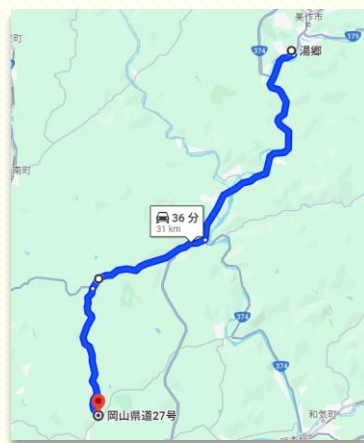
	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年	2016年
売上高	1,230万円	6億4,044万円	9億9,416万6千円	15億6,500万円	15億5,264万5千円	15億8,496万1千円
出荷農家数	280名	1,295名	2,018名	2,986名	3,587名	
農家の手取り額	984万円	5億1,235万2千円	6億3,533万3千円	9億3,200万円	9億2,211万6千円	9億8,796万9千円
雇用者数	10名		54名	168名	152名	162名
集客数	1万7千人	89万6千人	139万人	218万9千人	217万1千人	221万7千人
出店店舗数	1店舗	4店舗	6店舗	9店舗	12店舗	13店舗

出所：大友作成⁷

岡山県観光客数

(単位：千人、%)

順位	観光地名	平成19年	平成20年	対前年比
1	倉敷美観地区	3,206	3,242	101.1
2	玉野・渋川	2,253	2,294	101.8
3	蒜山高原	2,287	2,251	98.4
4	岡山市・吉備路	1,760	1,742	99.0
5	鷲羽山とその周辺	1,828	1,638	89.6
6	岡山市中心部	1,046	1,211	115.8
7	美作・湯郷温泉	893	935	104.7
8	倉敷チボリ公園	765	925	120.9
9	後楽園	782	751	96.0
10	湯原・湯原温泉	657	575	87.5



郷部・湯の郷食糧レーン

東備食糧レーン構想

にぼり村が農都として西の屋→ドイツの森→城山→湯の郷までを有機農産で結ぶ食糧レーン（穀倉地帯）とする構想

仁堀地区（小規模集落）の生存戦略は、他地域との共存です。新しいストーリーを作って生き残るのではなく、いま有るものを最大限生かすことで生存可能性を高めたいと考えています。

特に人口規模が少ない地域は、存続するためのエネルギーが少なくて済むということに他なりません。あらゆることを一地域だけで抱え込むのではなく、他を生かすことで、生かされる。その戦略として農の都構想を推進すべきと考えています。

北あかいわエリアで未来の農村を形にしていきます!

これからの田舎はどうなっていくのだろう?

例えば草刈りで

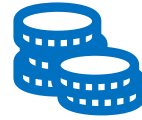
委託する先は

地域外事業者

資金が個人に移動

地域住民

地域からは資金が流出



資金流出



生活支援



「個人は地域のために投資しない」



地域にお金がないから・・・
これからは木が倒れていても
道路が崩れてても直せない
それが10年後の地域です

地域の存続は
“他人頼み”

企業や行政予算目当て

個人も稼ぎ

みんなが得する仕組みって何だろう?
それが

地域も稼ぐ

住民自治法人

地域の中で「仕事」を作り、住民が「仕事」として取り組んでいく

ボランティアでない福祉

で

地域存続に必要な資金を獲得

つまり、「住民の努力がお金になる」仕組みを作ろうというものです
支払った対価は地域へ投資されるので直接の **地域支援** になります

住民自治法人は **地域内で経済を循環させる** ための組織です

さまざまな事業や活動の受け皿に 地域にあるたくさんの資産を継承

個人農地



観光農村

公共施設



観光公園

一つの事業では収益が少なくても、全部集めると大きくなります。
地域管理を個人から組織へ移すことで持続性の高い地域を実現します。

私たちは、現在この構想を北あかいわエリアで進めています

推進団体

にぼり村まちづくり協議会

会長

植田 悦史